

# 令和7年度 学校経営計画書

かほく市立高松中学校  
校長 塚田 秀和

## 1 経営理念

伝統ある高松中学校に愛着と誇りを持ち、教職員が一丸となり、保護者・地域とも連携を図りながら信頼される高松中学校を築いていく。そのために次の3点を掲げる。

- ア 安心・安全で、美しく整備された魅力ある学校づくり
- イ 生徒・保護者・地域に貢献する魅力ある学校づくり
- ウ 教職員の満足度を高め、自慢したくなる魅力ある学校づくり

## 2 教育目標

「知性と創造力に富み、心身ともに健康でたくましい生徒の育成」

## 3 中・長期経営目標

### (1) めざす学校像

- ①安心・安全な教育環境のもとで、生徒がいきいきと活動する学校
- ②21世紀を主体的に生き抜くための確かな学力の定着を図る学校
- ③保護者や地域に信頼され、地域に開かれた、地域と共にある学校

### (2) めざす生徒像

- ①確かな学力を身に付け、一生懸命に取り組む生徒
- ②思いやりがあり、協力奉仕のできる心豊かな生徒
- ③命を大切にし、進んで体を鍛えるたくましい生徒
- ④集団の向上をめざし、規則を守る礼儀正しい生徒
- ⑤母校に愛着と誇りを持ち、地域に貢献する生徒

### (3) めざす教師像

- ①強い使命感と教育に対する情熱を持ち、一人一人の生徒理解と成長に努める教師
- ②生徒・保護者・地域に信頼され、創造的で人間性豊かな教師
- ③チャレンジ精神と謙虚さを持ち、常に指導力向上に努める教師
- ④組織の一員としての役割と責任を果たし、積極的に学校運営に参画する教師
- ⑤教育公務員として自覚と責任を持ち、多様な価値観にも柔軟に対応できる教師
- ⑥効率的・効果的な働き方改革に努める教師

### (4) めざす学校組織

- ①危機管理意識があり、チームとして行動できる組織
- ②報告・連絡・相談が機能し、情報が共有できる組織
- ③主体的・建設的・創造的に考えることができる組織

## 4 学校の現状

### (1) 学校全体

- ・全体的に落ち着いており、温かな人間関係（生徒間、生徒－教師間、教師間）を土台として教育活動が行われている

### (2) 生徒

- ・規範意識が高く、学習、学校行事、部活動等に一生懸命に取り組む生徒が多い
- ・協働的な学びの中で考えを深めたり、広げたりすることができていると感じる生徒は多い
- ・「生き方」をテーマにした講演会の実施より、「将来の夢や目標を持っている」生徒が、増加している。
- ・平日におけるネット等の利用時間が2時間を超える生徒が4割を超えている。
- ・平日の学習時間が1時間以上の生徒は3分の2を超え、昨年度から大きく上昇している。
- ・令和5年度より開始した月1度の学年職員による定期面談、生徒と向き合う時間の確保を目的とした日課変更により、生徒の自己肯定感の上昇が見られる。

### (3) 教職員

- ・石川県教育委員会より研究推進校の指定を受けたこと、教科部会を充実させたことより、職員の方向性が揃い、授業改善の意識が見られる。
- ・授業をはじめ、教育活動全般において、生徒の良さを認め、伸ばそうとする指導に努めている。その指導を生徒の自己肯定感の高まりにつなげたい。
- ・学年、教育相談員との協働（ケース会議の実施）やSSR、外部機関との連携から、組織的に不登校（傾向）生徒、特別な支援を要する生徒に対応している。
- ・年齢構成においては、若手が多く、経験や教育スキルの伝承が課題である。
- ・職員平均の時間外勤務時間は令和6年度後期より大きく減少が、依然として80時間超の教員がある。

## 5 カリキュラム・マネジメント

### (1) カリキュラム・マネジメントの柱

「自ら学び 豊かに表現する生徒の育成」

### (2) 現状

- ・自分の思いがうまく伝わるように。資料や文章、話の組立てなどを工夫して。発表しようとする生徒の割合が高い。
- ・学力調査の結果において、「書かれた内容に対して自分の考えを示したり、書いたりする」ことの正答率が低く、表現する前段階の資料を読み取ることに課題が見られる。
- ・令和6年度に「総合的な学習の時間」における「学び方」を軸にしたカリキュラム・プランを作成した。

### (3) 取組内容

#### ①教科横断的な視点

- ア 教科横断的な視点に立った「カリキュラム・プラン」の作成
- イ 総合的な学習の時間、生徒会活動を中心に、各教科での学びを生かし、生徒が表現する機会を設定する。
- ウ 11月に学習成果発表会を実施し、高松中学校区3校共通のカリキュラム・マネジメントの柱「表現力の育成」を育んだ生徒の姿を公開する。

#### ②PDCAサイクルの確立

- ア 生徒アンケート、教員アンケートの実施（7・12月）
- イ 校内研修会、教科部会を充実させ、生徒の実態から「表現力を伸ばす授業実践」について検証する。

#### ③人的・物的資源の活用

- ア 総合的な学習の時間を主とした、外部人材を活用した学習活動の計画的な実施
- イ 効果的なプレゼンテーションの方法等、表現力スキルを伸ばす機会の設定

### (4) 日程（年間計画）

- ・7月、12月に実施する生徒アンケート、教員アンケートの結果より分析、検証を行う。7月の検証結果は後期の教育課程に、12月の検証結果は次年度の教育課程に反映させる。
- ・今年度より11月に実施する学習成果発表会、10月～11月に実施する各学年の探求学習発表会を、探求学習に関わっていただいた地域の方、外部の方、保護者に公開する。発表会での生徒の姿について意見・感想をいただき「学び方」について検証する。

### (5) 組織

- ・「カリキュラム・マネジメントの推進部会」を教務主任、各学年主任の4名で構成する。この部会が上記日程において取組の分析・検証を実施し、職員会議等で報告する。また、必要に応じて、学年会等で具体的な方策について話し合う機会を設け実践を進めていく。

## 「皆で高め合う学校」

～ 確かな学力をと豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒の育成 ～

- 生徒が行きたくなる学校づくり
  - ・学ぶ楽しさを実感する授業、達成感をもたせる行事・部活動
  - ・一人一人の居場所があり、安心・安全に過ごすことができる環境
- 保護者が子供を通わせたいと思う学校づくり
  - ・保護者との信頼関係の構築、連携の強化による家庭教育の充実と生活習慣の確立
  - ・組織的な対応によるいじめや不登校の未然防止と早期発見
- 教職員にとって働きがいのある学校づくり
  - ・それぞれが持ち味を発揮でき、互いに協力しあえる同僚意識に満ちた温かい職場環境
  - ・1人1台端末の効果的な活用を図り、授業力の向上を目指す。
  - ・業務の効率化、時間的平準化による働き方改革の推進

## (1) 学力向上

- ① 「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の取組の推進（石川県教育委員会より研究推進校に指定：令和7年度は指定2年目）
  - ア 教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進★
  - イ ICTの効果的な活用による「個別最適な学び」の推進（GIGAスクール構想の推進）
- ② 学力向上ロードマップや教科の資質・能力育成シートを基にした全職員による取組の推進
  - ア 学力調査結果の活用と弱点克服のための取組の推進及び教科部会の充実
  - イ 学習規律の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の推進
  - ウ 読書活動及び読書習慣定着の推進

## (2) 豊かな心の育成

- ① 自己肯定感の育成
  - ア 生徒会活動及び学校行事の充実と活性化
  - イ 「認める」「褒める」生徒指導の推進と自分の良いところを見出せるキャリア教育の充実
  - ウ 生徒を活かしたタイムリーな掲示の充実
- ② 積極的・組織的な「支える生徒指導」の推進 ★
  - ア 「いじめ」の未然防止及び早期発見と早期の適切な指導
  - イ 不登校（傾向）とならない「居場所づくり」「絆づくり」を重点にした学級経営の推進と「寄り添う指導の推進」（教育相談体制の充実と組織的な対応、生徒や保護者からの相談に対する迅速かつ丁寧な対応）
  - ウ かほく市 SSR の理念「子供たちの多様性を認め、社会的自立を目指し『チーム学校』で支援する」ことの共通理解及び実践（有効活用）★
  - エ 特別に支援を要する生徒への共通理解と、合理的配慮を意識した個に応じた支援の充実
- ③ 道徳教育の充実
  - ア 地域人材の活用及び考え議論する道徳授業の推進

## (3) 健康教育の充実と体力向上

- ① 食育の推進
  - 食の大切さを理解させる指導の充実
- ② 体力・運動能力の向上
  - ア 部活動等を通じた生徒の健全育成と学校の活性化
  - イ 体力テスト結果の有効活用と体力アップ1校1プランの充実 ★
- ③ 適切なメディアの使い方の指導と啓発活動
  - ア メールやネット、ゲーム等の適切な使い方（依存防止）を図る指導の充実

## (4) 円滑な学校運営と学校の活性化

- ① 組織的な学校運営・校務分掌の確立
  - ア 取組の進捗状況の検証・評価・点検とその後の改善策の実行
  - イ 主任会での密な情報交換と共通理解に基づく組織的な取組の推進

ウ 若手ミドルリーダーの育成

② 学校評価を生かした学校運営

ア アンケート結果に基づく課題の明確化と改善策の立案・実践

③ 信頼される学校づくりのための連携強化

ア 小中連携による9年間を見通した教育の充実 ★

イ 学校便りやHP等による広報活動の充実

④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進

ア 地域人材活用による学校教育の活性化

イ 保護者・地域との確かな信頼関係の構築

**(5) 教職員の働き方改革の徹底**

① 働く意義を考え、生徒・保護者・地域への貢献を基本とした働き方の改革を推進する。

② 教職員の時間外勤務時間の削減に努める。

ア 時間外勤務時間調査を継続し、効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直しと健康管理意識の高揚を図る。

イ 組織的な校務改善の対策（部活動休養日、定時退校日、学校閉庁日等）★

③ 改善への取組を保護者や地域に周知するとともに、理解と協力を求める。